

# 情報ボックス

今回は、No.25でお伝えした『プレイルーム』での指導例についてお伝えします。

## ボールプール

本校ではボネルンド社の『ボールプールのトランポリン』を用いています。空気で膨らませたプールにカラーボールを敷き詰め、その中に児童生徒と教員が入り、プールに寝てボールの圧力を感じたりボールをかけられたりして感覚遊びのような指導をします。また、プールの中で寝返りやすり這いで動くことで、様々な感覚刺激を受ける学習にもなります。

このような大きなボールプールを準備することは難しいかもしれませんが、家庭用のビニルプールにカラーボールを敷き詰めることで代用できます。



## バランスボード

半円状の台に児童生徒が座り、前後左右に揺らしてバランスを取る学習を行います。自分で姿勢を保つことが難しい場合が多いので、安全に乗れるよう教員が支援します。強すぎる揺れだと恐怖を感じ、弱すぎる揺れだと感覚を受けにくいので、児童生徒にとって「楽しい」と感じる刺激になるように支援を工夫します。



## 他にもこのような活用も

本校のプレイルームは、暗幕カーテンにより遮光することで暗室をつくることができます。視覚刺激を減らした環境での学習や、光の刺激を受けることを目的とした学習などで活用します。

下の写真は、暗室で「手元のスイッチを押すとミラーボールが光る」という因果関係の学習をしています。暗室にすることで光刺激を受け入れやすくなり、因果関係の理解につながりやすくなると考えられます。



※写真掲載のために部屋を明るくしていますが、カーテンにより部屋を非常に暗くできます。

## 個別性に応じた指導を

肢体不自由の児童生徒は、様々な刺激の中から必要な情報を適切に取捨選択することが難しい場合が多いです。今回お伝えした指導は一例であり、児童生徒の実態に応じて指導や教材を工夫したり、配慮をしたりする必要があります。そこには刺激を受容する「感覚」と「運動」の関係が非常に重要です。(情報ボックス No.19,20 も参考にしてください。)

指導についてご相談があれば、本校の支援相談までお問い合わせください。